

野江内代駅(地下鉄谷町線) 今はなき榎並城を求めて



「大阪あそび歩マップ集」
その3 No.127

地下鉄野江内代駅

①京街道の碑

京街道は、豊臣秀吉が文禄年間(1592~96)に毛利家に造らせた街道です。大坂と伏見を最短距離で結んでいます。近年、街道筋が整備され、道標や案内板が所どころに建っています。道標には京橋口からの距離が刻まれています。

②榎並講の祠

昭和初期、このあたりで大峰山信仰が流行しました。男の子は13歳になると、1泊2日で大峰詣に出ました。大峰山は三大修験場のひとつで、厳しい行が行われます。信仰者の集まりである講の祠は、昭和8年(1933)に建てられ、いまも近所の方々が手厚くお祀りされています。



③来迎寺

文化文政年間(1804~30)のころ、住職のいなくなった来迎寺の門徒に請われて、現住職のご先祖が住職になりました。本堂・大門・庫裏は昭和10年(1935)ごろの木造建築です。境内には慶安5年(1652)の年号の入った手水鉢があります。

④野江水神社

天文2年(1533)、三好政長が榎並城築城のとき、水火除難を願って城内に小さい祠をつくったのが起源といわれています。現在の社殿は、明治18年(1885)の大洪水で倒壊し、3年後に再建されました。洪水の際に流されてきたという地藏様も神社の隣に祀られています。



⑤榎並城跡・榎並猿楽発祥の地

榎並城は、天文2年(1533)、三好政長が築城。小さいながらも東成郡随一の要衝といわれまし

たが、天文17年(1548)、三好長慶の攻撃で陥落しました。猿楽というのは、奈良時代、中国大陸から入ってきた「散楽」という芸能がはじまりだといわれています。軽業や手品、歌舞音曲などの雑芸の中から、猿楽(申楽)は、平安時代、物真似などの滑稽芸を中心に発展していきました。やがて人々の人気を得て、日本各地に座ができます。榎並には、鎌倉時代末期に丹波猿楽の新座としてできました。南北朝時代には榎並座と呼ばれ、本座を凌いで丹波申楽の楽頭にまでなり、室町時代には将軍の後援も受けています。しかし応永31年(1424)、大和猿楽に丹波猿楽の楽頭の座を奪われ、また応仁の乱(1467~77)に榎並の地が巻き込まれ、榎並猿楽は衰退、消滅してしまいました。

地下鉄野江内代駅

